

再生医療をサポートするペプチド材料

【概要】

新技術・研究の概要

ペプチド材料の特徴は次の通りである。

1. 生体由来の材料である
2. 大量合成が可能
3. 分子設計が容易である
4. 遺伝子組換えタンパク質に比べ安全性が高い

以上のことを考慮すると、再生医療などの生医学分野での応用が可能となる。

従来技術・競合技術との比較

ペプチドのβ-シート構造を利用した足場材料は、現在開発されていない。

ペプチドをもちいた細胞凝集塊の作成方法は、現在開発されていない。

両手法とも、新規なペプチド材料である。

新技術・研究の特長

- ・ ペプチド材料は、生体材料をはじめ応用範囲は大変広い。
 - ・ ペプチドの材料化研究は日本では数少なく、未知の可能性を秘めている。
 - ・ iPSやES細胞の研究を飛躍的に進歩させることが可能性を有している。
- 再生医療の具現化不可欠な技術である

【研究成果の産業への展開例】

医療機器メーカー

細胞培養用基材メーカー

試薬メーカー

医薬品メーカー への産業化が見込まれる。

【研究者データ/連絡先】

大学： 関 西 大 学

学部・学科： 化学生命工学部化学・物質工学科

役職： 教授

氏名： 平野 義明

研究者からのコメント：



関西大学の産学官連携に関する窓口 「 関西大学 社会連携部 産学官連携センター 」

所在地： 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

06-6368-1245 (直通)

E-mail / syakairenkei@jm.kansai-u.ac.jp

URL / <http://www.kansai-u.ac.jp/renkei/>